



H28. 12. 2. №1354
静岡県漁業協同組合連合会
☎054-254-6011 Fax054-253-9343
編集・発行＝指導部漁業振興課
URL:<http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/>

1. 平成 28 年度漁協組合長・役員研修会開催

県漁連では、11月2日県水産会館大会議室において約50人の漁協組合長・役員を対象に「平成28年度漁協組合長・役員研修会」を開催しました。

研修会では、柴田浩一郎北海道報徳社常務（演題：協同組合の誇りと使命）と吉田博身全国漁業協同組合学校長（演題：JF 役員役割と責務）による講演が行われました。

柴田氏は、「漁業経営を永続させるためには、目標を明文化することが重要である。目の前の利益にこだわらず、将来への投資という問題抜きでは、農業・漁業の経営は成り立たない。また、組合員を支える日本の農協、漁協は総合協同組合の形態を取り、相互扶助を組合の中心に据え、理念を持って販売、購買、信用の各事業に取り組んでいる。事業の主体はあくまでも組合員であり、組合員の心を合わせることを第一義的に考えて運営することが重要」と述べました。

続いて講演した吉田氏は、役員法律上の権限や義務と経営者、協同運動のリーダーとしての役割や責務、コンプライアンス経営などを中心に丁寧に解説されました。

2. 第 17 回フレッシュ・ミズ・プログラム開催 —JF 全漁連・JF 全国女性連—

10月20日21日の両日、秋田県八峰町において、JF 全漁連、JF 全国女性連主催による「第17回フレッシュ・ミズ・プログラム」が開催され、本県の吉村紀子理事を含め、全国から約40名の女性部員が参加しました。東北での開催は、今回が初めてとなり、冒頭、吉村栄子 JF 全国女性連会長が、遠方からの参加者に対し謝意を述べるとともに「部員の高齢化・減少という大きな問題を抱え、JF 全国女性連でもフレッシュミズ部会を立ち上げ、若い皆さんの意見を活動に反映できるよう対策を講じていくので、皆で工夫しながら漁協女性部を輝かせて行きましょう」とあいさつしました。

プログラムでは、第21回全国青年・女性漁業者交流大会で水産庁長官賞を受賞した秋田県漁業協同組合北部地区女性部の加工グループ「ひより会」の岡本リセ子代表（元 JF 全国女性連会長）による事例発表と秋田県水産振興センター総務企画班 土田織恵主査から「秋田県の女性部活動」についての発表後、東海大学海洋学部 関いずみ教授をコーディネーターに「みんなで話してみよう！楽しいこと、始めるために」をテーマにグループディスカッションが行われ、現在の女性部や女性部の将来像などについて、活発な意見交換と各グループの話し合いの結果が発表されました。

翌日は、「ひより会」の加工施設とあわび養殖を手掛ける日本白神水産㈱、八峰町農林水

安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう

自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

産物直売所を視察、ひより会加工所では看板商品「しょつつる」の製造工程を見学するなど充実した研修となりました。

3. 第 4 回 Fish-1 グランプリが開催される

11月20日東京・日比谷公園 にれの木広場において第4回となる「Fish-1 グランプリ 2016」が開催されました。

コンテストは、昨年引き続き、国産水産物を使った、ファストフィッシュを扱う企業・団体を対象とした、「地球を元気にする 国産魚ファストフィッシュ商品コンテスト」と全国の地元漁師が、自信を持って薦める魚、プライドフィッシュを素材に使用した「漁師自慢の魚 プライドフィッシュ料理コンテスト」2部門で開催され、1次書類審査を通過した各部門6作品の最終審査が行われました。

「ファストフィッシュ商品コンテスト部門」では㈱東平商会の『いとうナゲット』が、また、「プライドフィッシュ料理コンテスト部門」では、JF 滋賀漁連（JF 滋賀漁連青年会）の『天然ビワマスの親子丼』が、それぞれグランプリを受賞しました。ファストフィッシュ部門でグランプリを受賞した㈱東平商会『いとうナゲット』は、いとう漁協が、製造販売する「サバ男くんすり身®」を使用、サバ本来の旨みを手軽に楽しめる魚肉ナゲットで、魚食普及のため学校給食や官公庁の食事施設で採用されている他、伊豆半島の観光施設でも提供されています。

4. 43 年ぶりに静岡で全国大会開催 —全水商連—

全国水産物商業協同組合連合会（永井良和会長）では、11月6日静岡市のホテルアソシア静岡に全国から約330人の鮮魚小売業者が終結して『第68回全国大会』を開催しました。今大会は、『今一度、魚食文化を見直そう』を大会テーマに、昭和48年以来、43年ぶりに本県での開催となりました。当日は、多くの来賓も参加、永井会長、別所健実行委員長代行の主催者挨拶に続き、山本雄二農林水産大臣（代理：丸山雅章大臣官房審議官）、難波喬静岡県副知事、田辺信宏静岡市長、馬場久萬男食品流通構造改善促進機構会長、白須敏朗大日本水産会会長のほか、地元選出国會議員を代表して上川陽子衆議院議員が来賓として挨拶、参加者の魚食取り戻しへの奮闘にエールを送りました。

大会では、静岡県水産物商業協同組合青年部の繁田圭祐会長が、地域に貢献する魚屋としての決意を宣言、同じく青年部の高田秀敏氏により大会決議文が読み上げられ、満場一致で採択されました。

また、会場では、(公財) 漁船海難遺児育英会（県内事務局；県漁連指導部）、による募金活動も実施され、訪れた多くの参加者にご協力頂きました。

漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう